

令和2年度実施事業の成果



写真1 石垣整備工事が完了した菅生川端石垣（南西から）

I. はじめに

『岡崎城跡整備基本計画-平成28年度改訂版-』（H29.3）の策定から4年目の令和2年度は、岡崎城跡内で2箇所の発掘調査と石垣測量調査、菅生川端石垣整備工事等を行いました。今回は令和2年度に実施した事業について紹介します。

No	地点	期間	内容
①	大手門	R2.8.17～9.28	トレンチ調査3箇所 調査面積 50.0 m ²
②	坂谷曲輪	R3.1.25～3.5	トレンチ調査6箇所 調査面積 165.0 m ²

表1 発掘調査履歴



図1 岡崎城郭図と調査・整備地点

Ⅱ. 発掘調査事業

1. 大手門

大手門は岡崎城の表門であり、記録類によれば城内で最大規模の門でした。現況では戦災復興や市街地化によりその痕跡を全く留めません。今回、大手門の想定地において遺構の残存状況を確認するために道路敷地において発掘調査を行いました。

調査成果

調査区内には現代の開発により設置された管渠類の掘方が錯綜し、トレンチ1にてわずかに地山層が確認され近世遺物も出土しましたが、大手門や大手門周囲の堀の痕跡は全く確認されませんでした。



写真2 調査区東側（写真右側）で確認された地山

2. 坂谷曲輪

坂谷曲輪は本丸及び二の丸西側の一段低い位置にあたり、南北に細長い曲輪です。坂谷曲輪の西側は水堀を隔てて白山曲輪があり、堀を望む坂谷曲輪の縁辺には土塀があり、水堀に面して腰巻石垣が築かれていました。

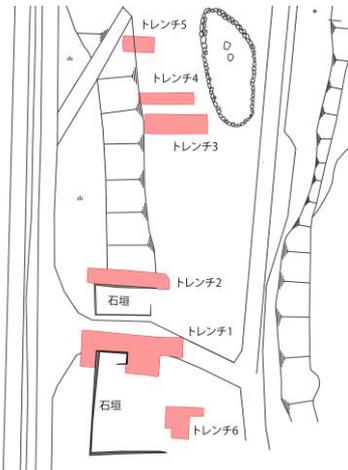


図2 坂谷曲輪トレンチ配置図

坂谷曲輪の虎口（出入口）としては天守の真西にあ

たる位置に坂谷門があります。坂谷門は枡形（石垣などで四角く囲まれた防御施設。前後に門を備えるものが多い）を構成し、さらに外側には枡形から土橋で結ばれる丸馬出しも備えた嚴重な虎口を形成していました。こうした嚴重な構えは、関ヶ原の戦いの後に城主となった本多氏によって、豊臣氏を睨み城西の防衛拠点とするために構築されたものと考えられていま

す。城東の大手門（表口）に対して搦手口（裏口）にあたることから搦手門とも呼ばれます。

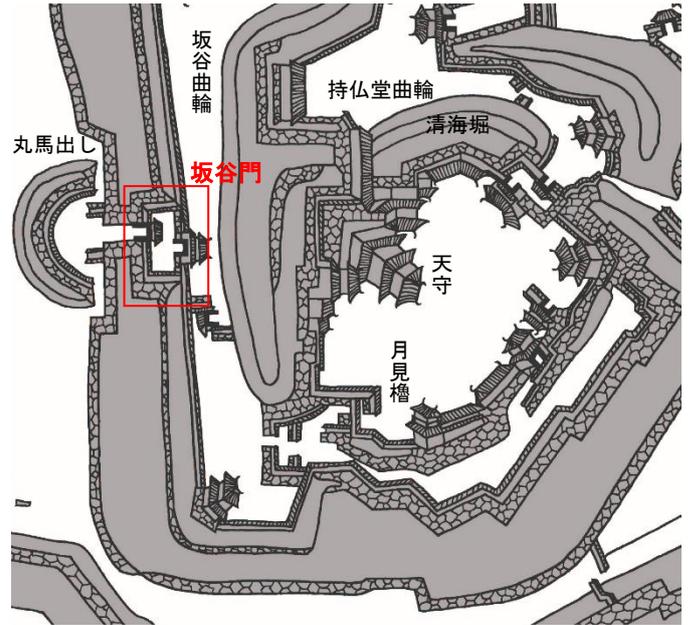


図3 江戸時代絵図のトレース図（トーンは堀・石垣・建物）
調査成果

枡形門の礎石 トレンチ1で枡形の外門（高麗門）、トレンチ6で内門（櫓門）の礎石の一部がそれぞれ確認されました。外門の礎石は南側の鏡柱と控柱の礎石、内門は南側の鏡柱と脇柱に相当します。外門は文献に規模が記され、その規模と整合します。内門の規模は文献に記されないため、発見された礎石が規模を推定するうえで重要な根拠となります。

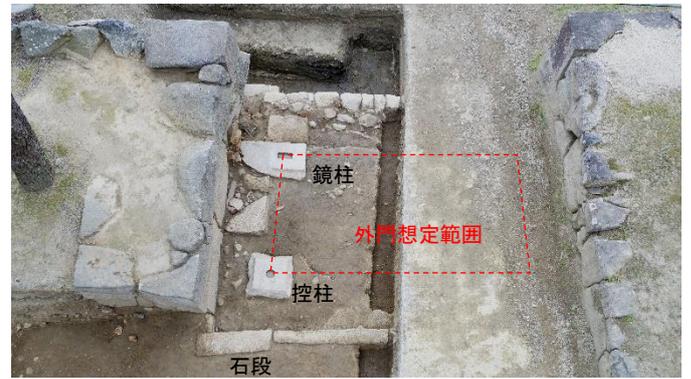


写真3 外門礎石（トレンチ1）



写真4 内門礎石（トレンチ6）（北東から）

枅形内部の構造 外門の直後と内門の直前にそれぞれ石段が確認されました。外門から内門へ向かい上り勾配(4度前後)があることから、石段が最終的な枅形内の段差を解消する役割を果たしていることが分かりました。



写真5 枅形内の上り勾配 (トレンチ1) (北東から)
曲輪縁辺の状況 トレンチ 3～5 では曲輪縁辺で土塀の土台となる石列や石組み溝を確認しました。しかしいずれの石材も連続せず、後世に抜取られた可能性が高いことが分かりました。

トレンチ2では堀に面する腰巻石垣の検出を目的としましたが、今回の調査では確認することができませんでした。さらに深い位置にあるものと考えられます。
伊賀川改修の痕跡 現在坂谷曲輪西側を流れる伊賀川は明治末期から大正初期の改修工事によりこの場所に流路が変更されました。その時の護岸と考えられる石垣がトレンチ1・2で確認されました。



写真6 坂谷曲輪縁辺部 (トレンチ3～5) (北から)

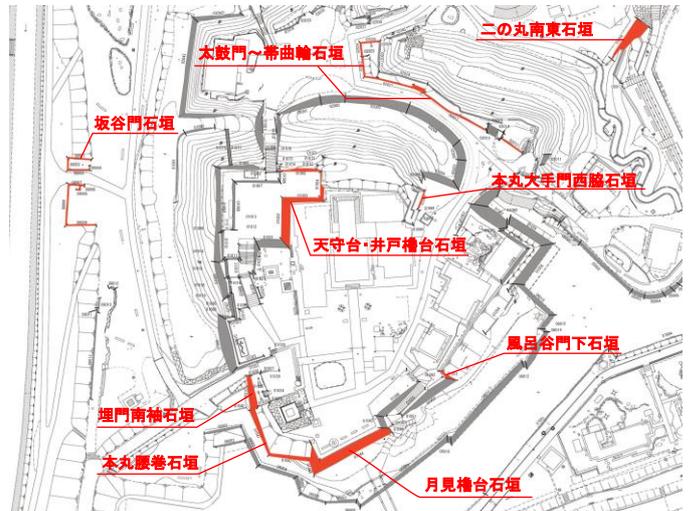
Ⅲ. 石垣保存修理事業

『岡崎城跡石垣保存修理基本計画』(H30.3)に基づき、以下の事業を実施しました。

1. 樹木伐採による石垣の保存。
→石垣をき損する18本の樹木を伐採。
2. 石垣測量による基礎資料の作成。

→石垣28面を測量。

3. 変位計測(測量)による石垣の変状の把握。
→危険度A判定の8箇所の変位計測(年4回)。
4. 変位計測(クラックゲージ・ガラス棒)による石垣点検。
→クラックゲージ15箇所、ガラス棒22箇所の点検(年4回)。



■ 石垣測量箇所 ◆ 変位計測

図4 石垣保存修理事業実施箇所図



写真7 樹木伐採前後の状況 (本丸月見櫓台西側)



写真8 石垣測量図 (オルソ画像) (天守台石垣東面)

Ⅳ 整備・活用事業

1. 菅生川端石垣整備工事

昨年度に引き続き、中央枅形の石垣整備工事を実施しました。石垣からは樹木が生育していたことから、石垣を解体し、除根を行ったうえで再び石垣の積み直しを行いました。

菅生川端石垣の概要 乙川(菅生川)に面する石垣で江戸時代前期の藩主本多忠利の時に築られました。これまでの発掘調査等により高さ5.4m、延長約400mの石垣に

3箇所の突出部(枡形)を備えた石垣であることが判明しています。

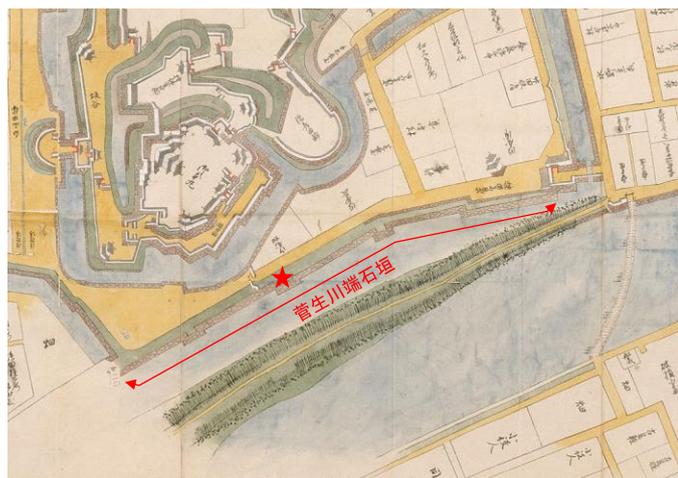


図5 菅生川端石垣と整備箇所(★印)

整備の経過 昨年度までの整備で石垣の隅部から生育した樹木の伐採と現代に積まれた石積みの撤去まで行っていました。今年度は石垣の解体と並行しながら樹木の抜根を行った後に再び石垣を積み直す整備を行いました。なお、石垣の解体前には石垣背後の発掘調査を行い、石垣背後の栗石の状況を確認しています。

事前の発掘調査では石垣の背後には幅約 2.0m に渡り栗石があることがわかりました。また、樹木を除去したところ石垣石材が良好な状態で残っていることがわかりました。そのため、石垣の積み直しにあたっては新材をほとんど使用することなく整備を行うことができました。

なお、石垣整備工事では文化財としての価値を損なうことのないよう、専門的な技術者により解体・積み直しを行いました。



写真9 発掘調査での栗石検出状況



写真10 石垣整備前後の状況(右: H29、左 R3. 3)

V その他事業

1. 企画展:「大発見!?岡崎城跡出土品展Ⅱ」

岡崎城跡内にある三河武士のやかた家康館において、企画展「大発見! 岡崎城跡出土品展Ⅱ～最新の発掘調査と銘文瓦～」が開催されました(会期: R2.9.19～11.8)。平成29年度以降に実施された発掘調査(6箇所)の写真パネルや出土品約100点が展示されました。



図6 開催チラシ

2. 坂谷曲輪発掘調査現地説明動画の公開

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、坂谷曲輪発掘調査については現地公開のみとし、説明会は開催しませんでした。現地公開は3月6・7日に実施し、約700人の参加がありました。現地説明会に代わるものとしては成果説明動画を作成しました(市公式 YouTube)。現地公開説明資料と一緒にご覧いただき、調査成果の理解にお役立っていただければと思います。



写真11 成果解説動画イメージ

↓ 成果動画 (YouTube) ↓



↓ 現地公開説明資料 ↓

